

岐阜県嚥下障害研究会
モグモグ通信
 No. 30 (2017. 5 発行)

今年の学術講演会は、我が国の嚥下リハビリの第一人者である藤島一郎先生をお迎えします。また、前日は講師の先生方を囲む会を予定しています。



発行所：岐阜県嚥下障害研究会
 事務局：土岐市立総合病院 ST 室

「高山大会でお待ちしています」

第20回学術講演会高山大会

大会長 大埜間 勉

(おおのま歯科クリニック院長)



第20回学術講演会（高山大会）の大会長を務めます大埜間勉

と申します。高山で開業している歯科医師です。私は高山に生まれ育ち、大学を出て岐阜大学口腔外科学教室に入局した後、神岡鉦山病院歯科（現在廃院）や高山赤十字病院口腔外科に勤務をさせて頂きました。卒後すぐ神岡での勤務でしたのでこの飛騨の地で歯科医療に携わり30年を過ぎようとしています。私は高山赤十字病院の口腔外科で勤務させていただきながら、口腔ケアや嚥下障害患者さんへの対応、病院NST委員会の立ち上げなどに携わってまいりました。また、開業後、岐阜県歯科医師会の地域医療委員会におよそ10年間所属させて頂き、県内の障害者歯科医療や高齢者の歯科医療、在宅歯科医療などの事業にも携わってきました。日本では世界に類を見ないスピードで高齢化が進み超高齢社会となっております。県内でも飛騨地区において高齢化率は県内の平均より高くなっているのが現状です。さらに医療資源である医療従事者も地域局在が著しく表れており、まさに多職種が手を取り合い摂食嚥下の患者さんに対応しなければいけないと感じています。高山大会ではテーマを「食を考える」～温故知新 未来への挑戦～としました。今大会は20回大会となり研究会の節目となる大会となります。特別講演に浜松リハビリテーション病院の病院長 藤島一郎先生にご講演をいただきます。先生は摂食嚥下リハビリテーションの著

書・論文も多数発表されこの分野での第一人者の先生でいらっしゃいます。ご講演は「嚥下障害の評価とリハビリテーション-最新のトピックスをまじえて-」と題し基礎的なお話から最新の情報までお話いただけるように伺っておりますので、今から楽しみにしているところです。最近はフレイル・サルコペニアという言葉を目にしますがこれらは我々が携わっている摂食嚥下の問題と密接に関係があることは明らかです。午後からは岐阜県立下呂温泉病院口腔外科の宮本謙先生にお願いし、嚥下障害患者さんのVE・VF検査の症例を提示していただければと思います。

そして短い時間になるかもしれませんが当研究会、会長豊島義哉先生に研究会の20年の歩みなどの話をいただく予定です。

また今回、前日に講師の先生方との懇親会を予定しております（有料）。大会案内時にこちらも具体的に案内をさせて頂きたいと思います。講師の先生も参加して下さいますのでお時間の許される方はこちらにも参加して下さると良い思い出になると思います。

高山大会では地理的にも遠方ではありますが、素晴らしい学術講演会となるよう実行委員会のメンバーの知恵を集結し講演会運営に邁進してまいりますので皆様の参加をお待ちしております。



「田本朋巳先生を偲ぶ」

研究会理事 柴田一浩

(希望が丘こども医療福祉センター 言語聴覚士)



故 田本 朋巳氏

10 年以上にわたって当研究会の理事を務められ、小児勉強会ではスタート時から常任の世話人の一人として関わってくださった岐阜県立希望が丘こども医療福祉センターの田本朋巳氏（作業療法士）が、本年1月10日、膵臓癌のためご逝去されました。この3月に定年退職を迎える予定でした。昨年9月に病気が見つかり、それからたったの4か月でお別れすることになってしまい、これまで田本先生にお世話になった多くの関係者はショックと深い悲しみに包まれました。ここに謹んでご冥福をお祈り致します。1983年に希望が丘学園（現こども医療福祉センター）に入職以来、33年間にわたって障がい児の療育、リハビリテーションに従事され、近年は県内各地に出向き、療育現場、保育所等の地域支援を行っておられました。センター内では、「摂食外来」「姿勢保持外来」の専門外来に関わり、リハビリでは理論に裏打ちされた臨床技術の高さ、アイデアの豊富さ、ひらめきや創意工夫といった「タモトワールド」から多くのことを学ばせてもらいました。県内で摂食・嚥下リハビリに一番に精通した作業療法士でした。

2006年の第9回学術講演会では大会長として、開催の1年以上前から実行委員会を立ち上げ、緻密な計画のもと、当日はスタッフを含め400名を超える盛会な大会となりました。一地方の研究会に県外から多くの申し込みがあり、埼玉や神戸などの遠方からの参加者にビックリしたことを覚えています。しかし、その裏では、地道に県外の関係機関の広報誌に自ら記事を書いて投稿されている姿がありました。

本人曰く「企画立案づくり」が趣味といった一面は、通算48回の勉強会と9回の摂食指導講習会を企画した小児勉強会でも活かされていました。そこにはいつも田本先生が縁の下の力持ちで支えてくれました。2011年からはブログ「T-Woldへようこそ!」を開設し、小児勉強会の参加申し込みの窓口を担っていただきました。そのブログには田本先生のライフワークであった「姿勢保持」に関する工夫やアイデア、情報などが満載されています。身近な段ボールやタオルを使っただけの姿勢保持の工夫、手作り自助具などなど・・・、ぜひ一度ご覧ください。ご遺族のご好意により当面の間は閲覧が可能です。

奥様のお話では病気を得てから「まだまだやりたいことがたくさんあるんだ」とおっしゃっていたとのこと。小児勉強会のスタッフ全員、田本先生の療育に対する熱い思いを受け継ぎ、頑張っていこうという決意です。空の上から「しばや〜ん、みんな、頑張っているね!」と言われるように・・・決意を新たにします私です。・・・合掌。

注) 「T-Woldへようこそ」、「小児摂食嚥下」で検索してください。



第45回小児領域研修会で大阪発達総合療育センターの辻薫先生（中央）を囲んでのスタッフ写真 豊島先生の左が田本先生

第2回 研修会レポート

小児領域研修会に参加して

美濃加茂市児童発達支援センター カナリヤの家
言語訓練指導員
山田 雅代

今回の研修案内を見て、カナリヤの家での食事指導に活かしたいという事と症例提案者が他の研修会で一緒したことがある永田先生という事で、すぐに参加を決めました。

野沢先生のお話では、子どもさんの機能的な側面はもちろん、心理的な問題や子どもさんを取り巻く環境等、トータルに子どもさんを捉えることの大切さについて学ぶことができました。指導場面では、野沢先生のお話の中の大切にしたいことがそのまま映像としてあるような微笑ましい指導場面を見せていただきました。また、機能面でのアプローチ方法と「なぜ、その働きかけを行ったのか」という分析方法も具体的にフィードバックしていただいたことも有難かったです。

Sちゃんと永田先生との間にある信頼関係、野沢先生の的確なご指導、その指導に臨機応変に対応される永田先生の療育、そして多く見学者を受け入れてくださったSちゃんとお母さん…。すべての要素が整ったからこそその、素晴らしい学びの場に参加できたことに感謝しています。

グループワークでは様々な職種がSちゃんについて積極的に意見を出し合い、話し合うことができました。今回の症例は、特に、お母さん支援に難しさのある事例であったと思います。日々の療育の中でお母さんのニーズと子どもさんに必要な支援とのズレをどこまで、どう埋めるのかに難しさを感じており、グループワークでその難しさを皆さんと共有できた事、普段接することの少ない職種の方と意見交換できた事で良い刺激を受けられました。

また、研修会の冒頭、田本先生の訃報を伺い、

日時：平成29年3月4日（土）10:00～16:30

会場：関市中央親子教室

日程：10:00～ 症例検討会 I ①～③

提案者 関中央親子教室 療育指導員 永田 久子先生

11:30～ ケース児の食事場面の検討 ④

14:00～ 講師によるまとめとミニ講義 ⑤

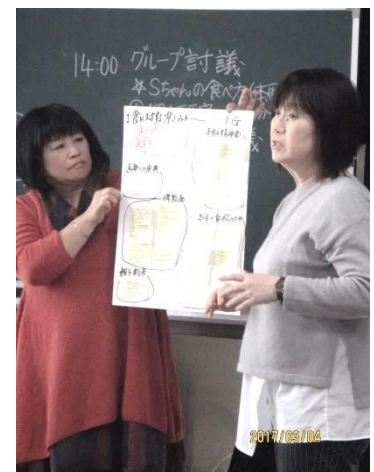
助言者 元信濃医療福祉センター

言語聴覚士 野沢 由紀子 先生

ご冥福をお祈りすると共に、「田本ワールド」で、子どもさんの支援への熱い思いや教えていただいた具体的な支援方法が思い起こされました。それらを自分の療育に活かしながらこれからも学び続け、成長していきたいと思いました。



グループ討論



研修会・学術講演会ご案内

第20回 摂食嚥下リハビリテーション 初級課程講習会

日時：平成29年8月27日（日）
9時30分～16時

場所：タウンホールとみか

- 内容：1. 摂食嚥下のメカニズム
 2. 摂食嚥下障害者の加齢による影響
 3. 摂食嚥下障害の評価
 4. 間接訓練、直接訓練
 5. 小児の食支援（発達と支援）
 6. 食支援に必要な血液生化学データの基礎知識
 7. リスク管理：低栄養、脱水、誤嚥、窒息、
 8. 口腔ケア（演習を含む） など

講師：加藤孝憲氏 土岐市立総合病院 言語聴覚士
川口千治氏 朝日大学附属病院 歯科衛生士
柴田一浩氏

岐阜県立希望が丘こども医療福祉センター

豊島義哉氏 国立病院機構東名古屋病院 言語聴覚士

参加費：会員2,000円 非会員3,000円

第1回 研修会 通算48回小児領域

日時：平成29年7月22日（土）13時～16時

場所：朝日大学 1号館 3階 第4大講義室

内容：小児のVF・VE検査について
～基礎知識とその診かた～

13:00～ オリエンテーション

「小児のVF検査～基礎知識とその診かた～」

講師：勝又 明敏 先生

（朝日大学歯学部 歯科放射線学分野 教授）

14:15～

「小児のVE検査～基礎知識とその診かた～」

講師：玄 景華 先生

（朝日大学歯学部 障害者歯科学分野 教授）

参加費：会員 1,500円 非会員 2,000円

定員：70名（先着順）

会費納入のお願い

納入金額：年会費 1,000円

未納者は宛名ラベルの西暦横に未と記しています。

振込先：郵便振替 加入者 岐阜県嚥下障害研究会

口座番号 00890-3-114142

* 通信欄に「〇〇年度分会費」とご記入願います。

* “振替用紙の控え”をもって 会員証とします。

* 2年間会費を滞納すると、退会となります。

（注）未入会者は 入会申込み手続きが 別途必要！

問い合わせ：土岐市立総合病院リハビリテーション部

言語聴覚士 加藤まで

メール または FAX 0572-54-8488

Mail:

gifukenengesyogaikenkyukai@yahoo.co.jp

第20回岐阜県嚥下障害研究会 学術講演会 中濃大会

日時：平成29年10月22日（日）

場所：高山市民文化会館 3階 大会議室

10:30～12:00 特別講演 1

「嚥下障害の評価とリハビリテーション

—最新のトピックスをまじえて—

講師：浜松リハビリテーション病院 病院長 藤島一郎先生

13:15～14:30 特別講演 2

仮題「下呂温泉病院における嚥下評価と地域連携」

講師：岐阜県立下呂温泉病院 口腔外科部長 宮本 謙先生

14:30～15:15：記念講演

「岐阜県嚥下障害研究会の足跡と将来」

講師：岐阜県嚥下障害研究会 会長 豊島義哉先生

参加費：会員 2,000円、非会員 3,000円